

新しい時代の始まり！

～クラウドコンピュータ時代における
日本大学の情報化ビジョン～

日本大学 学務部次長
(元総合学術情報センター事務長)

吉野 英治

日大の事情(悩み)

- 独立採算の弊害
 - システムがバラバラ
 - 結果
 - 膨大な情報投資額
 - 情報格差
 - サービス格差
 - セキュリティー格差

グーグルとの出会いで、僕らは変わった！

- グーグルサービスは凄かった。
 - 日大は、大きすぎて統一はできないと思い込んでいた。
 - グーグルは誰もできないブルーオーシャン戦略で、ビジネスの黄金則を手に入れた。
 - グーグルは本気でもう一つの地球を作ろうとしている
 - **google apps**の怖い秘密

ITの潮流(もう一つの地球を作る作業)

- ・ 世界の巨人が三つ巴
- ・ 多くの大学が参加し始めたぞ！
 - google Appsは、全世界で100万人の学生・教職員が利用。
- ・ 情報は、電気のように情報発電所が提供する。
- ・ 誰もが情報を活用できる世界が来た。

デモ

日大のクラウドコンピューティングの活用

<http://nu-apps.nihon-u.ac.jp/>

日大戦略 (ガラパゴスからの脱却)

- この指止まれ戦略で、システムの統合。
- 60点で実行。苦情を聞いて進化させる。
- 情報のハブになる。
 - さまざまなデジタル情報の提供が、大学の新しい使命。
- 組織の縦割りは治せない。でもシステムは、横断的にできるかも？
- 社会的情報インフラの活用
 - **saas**の活用 オープンソースの活用
- シナリオが面白くないシステムは、作らない。導入しない。

まとめ

- 電気が大学の前まで引かれているのに、いまだに自家発電。
- 情報は、お金と同じように銀行に預ける時代がやってきた。
- 既成概念を捨てて、こだわりを捨てて、社会的インフラを積極的に活用する
- センター事業は、テクノロジーの洞察力が大切だ。
- 近未来には、きっと人々は上手にリアル地球ともう一つの地球を行き来するのでしょうか。日本の企業にも、もう一つの地球を作る作業に頑張ってもらいたい。